

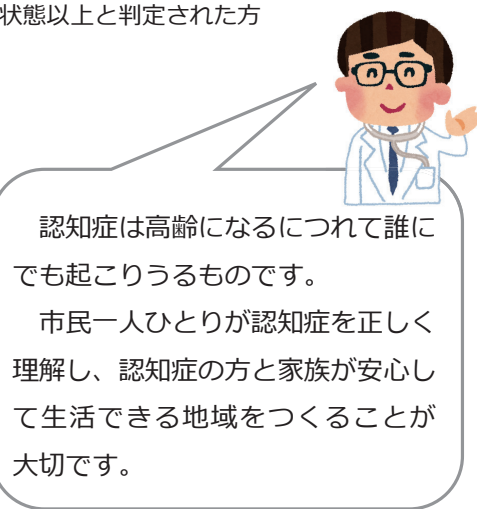
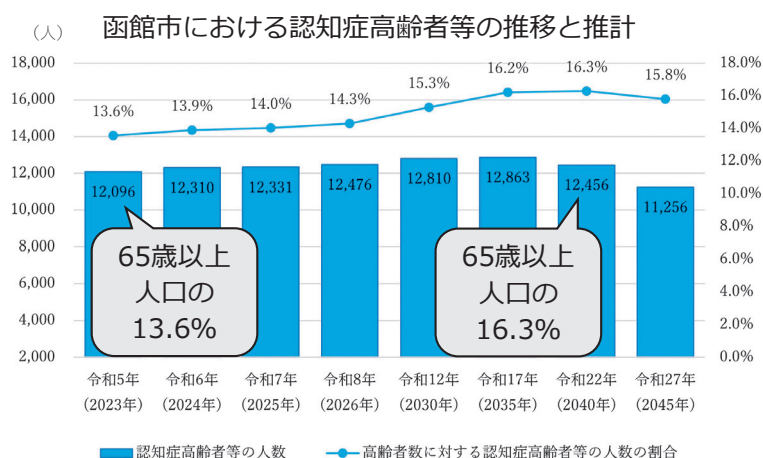
1 認知症について

(1) 認知症は身近な病気

厚生労働省によると、全国の認知症高齢者は、2012（平成24）年は462万人と、65歳以上の高齢者の約7人に1人でしたが、2025（令和7）年には約5人に1人になると推計されています。

函館市においては、2023（令和5）年9月末時点の状況をもとに2030（令和12）年から2035（令和17）年までの認知症高齢者等の人数を推計した結果、更に増えるものと予測されます。

※認知症高齢者等とは、要介護（要支援）認定者（第2号被保険者を含む）の日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる状態以上と判定された方



資料) 第10次函館市高齢者保健福祉計画・第9期函館市介護保険事業計画（2024年度～2026年度）

(2) 認知症とは

「認知症」とは、記憶や判断する力が低下したり、時間や人、場所の認識ができないなど認知機能の障がいが起こり、その結果、日常生活や社会生活に支障をきたすようになった状態をいいます。

加齢によるもの忘れと認知症の違い

誰でも年齢とともに、もの覚えがわるくなったり、人の名前が思い出せなくなったりします。このようなもの忘れは脳の加齢によるものです。

「加齢」によるもの忘れと「認知症」の症状は大きく異なります。

認知症によるもの忘れ	加齢によるもの忘れ
体験の「全部」を忘れる	体験の「一部」を忘れる
「食べたこと自体」を忘れる	「何を食べたか」思い出せない
「約束したこと自体」を忘れる	「約束をすっかり」忘れてしまった
目の前の人「誰なのか」わからない	目の前の「人の名前」が思い出せない
置き忘れ、紛失が「頻繁」になる	物を置いた場所を「しばしば」思い出せない
「ヒントがあっても」思い出せない	「ヒントがあると」思い出せる

*これはあくまで目安です。あてはまらない方もいます。